

議案 48 号、H25 年度一般会計補正予算第 2 号については、反対の立場から討論する。その理由の第 1 は、市民合意を得るための努力も説明責任も果たしていないこと。第 2 に、小中学校併設校に 10 億 4 千万円増の、134 億 8 千万円も莫大な経費をつぎ込むこととしたこと。第 3 に、市財政の深刻な事態を招く恐れがあること、第 4 に、当該学校へ通う子どもの発育成長にとっても、全市小中学校の機会均等にとっても、今後目の前に迫った各小中学校の建替え等大規模改修にとっても、取り返しのつかない禍根を残すものとなるからです。

そもそも、併設校建設をここまで急ぐ最大の理由は、小山小学校における計画及びおたかの森駅前センター地区におけるまちづくりのゆがみ、つまり業務都市構想が崩れ、高層マンション群となったことが原因です。経済的な背景はあるにせよ、あれほど、わが党が、小山小の早期移転に対し、様々な視点で拙速にすべきではないとしてきたことを聞かなかったのは、井崎市長あなたではなかったですか。

議会でも市民の前でも反省の弁すらなく、開き直り、併設校でも同じ轍を踏み、新設校開校を期限に、工期機関の確保、9 月末までの契約とスケジュール先にあり気です。拙速すぎる議案提案の姿勢は許し難いものがあります。

わが党が実施した併設校へのアンケートは、限られた学区のことではありましたが、賛成も反対も様々な意見が寄せられました。ハッキリ言えるのは 2 つ。まだまだ多くの市民が知らないし、知りたいと思っても市からの説明も何もないということ、もう一つは、おたかの森地区で小山小学校以外に新設の学校を望む保護者の間でも、また全市的にも、今度の計画が住民同士の対立を持ち込んでしまったということです。

義務教育の充実・拡充は多くの市民の願いですし、公共工事ですから市民みんなが本来喜んでもらえるものであるはずですが。それは市民合意をはじめ、教育の機会均等、福祉や災害対策等とのバランス、財政規律との関係が大前提です。にもかかわらず、134 億 8 千万円というのは年間教育費の 2.4 倍、商工費の 4.2 倍にもなります。「近くの公園の滑り台が老朽化で壊れ、直してほしいと頼んだのに、お金がないからと断るような市に、そんなお金があるの?」「学校現場は毎年のように市の予算が削減されているのに、納得がいかない」「財政破たんというから我慢してきた。でもそうやって作ったお金が一つの地域の一つの学校だけに流れるのはおかしい」…そういう市民の実感に市長は明確な答えも、説明も、情報公開もしていない。

ましてや、8 月の実施設計や今後の入札などの理由により、「134 億 8 千万円からさらに増える可能性は否定できない」ということです。

一体どこまで、突き進むというのでしょうか。まさしく権力の暴走ではありませんか。そして破綻の市政運営に、子どもの未来も市民の今の生活も任せられません。

最後に、「子どもの開校が間に合わないから』『先議案を認めるべき』との意見があるが、130 億円もの事業で、市民の賛同も得られず、事業の精査もなく、白紙委任というのでは議会の役目、存在意義が問われます。

今からでも遅くはありません。UR 都市機構への丸投げはやめて、市が責任を持ち、事業費の見直しを徹底して行うとともに、今の市内の各学校が、子どもの増加に伴って増築してきた歴史、市民と一緒に学校をつくってきた実績、全職員と市内事業者、そして市民の英知を結集させたオール流山による適正な新設の学校建設を提案し、補正予算第 2 号への反対討論を終わります。